

出張報告

報告日

令和3年12月15日

会 派 名	公明党
報告者氏名	若井 恵子、真貝 維義
種 別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	福島第一原子力発電所
日 時	11月19日(金) 12時～17時
場 所 (会 場)	福島県双葉郡大熊町
調査項目等	廃炉作業の現状と今後の対応
概 要	<p>東京電力廃炉資料館にてシアター視聴</p> <p>東京電力福島原子力発電所事務本館において福島第一原子力発電所の1号機から6号機までの現状、処理水の現状と課題の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1号機は今後の燃料取り出しに向けて建屋全体を覆う大型カバーを設置し、がれき撤去等を行う。 ・2号機は原子炉建屋上部を解体せず、建屋南側に「燃料取り出し用構台」を建設して建屋にアクセスし、燃料を搬出する工法を見直す。 ・3号機は2021年2月に、4号機は2014年12月に全ての使用済み燃料プールから全ての燃料を建屋外に取り出し完了 ・1, 2号機の燃料取り出し、燃料デブリ取り出しの開始に向けてロボット作業になる。 ・処理水に関しては汚染源を取り除く、汚染源を水に近づけない、汚染水を漏らさないという3つの基本方針のもと対策を進めている。 ・汚染水処理は放射性物質によるリスクを低減するためセシウム吸着装置や多核種除去設備 (ALPS) で処理することによって、トリチウム以外の大部分の放射性物質を取り除くことができる。 <p>福島第一原子力発電所構内視察</p> <div style="text-align: center;">  </div>

所 感 等

「真貝維義」

東京電力並びに政府は2023年の処理水の海洋放出を計画しているが、風評災害を招かないようにIAEAはもちろんのこと第三者機関によるエビデンスのもと国内外の理解を得ながら海洋放出を行うべきと考える。東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故以来、今回は6回目の視察であるが、10年前の震災・事故直後と比較すると第一原子力発電所内の廃炉へ向けての取り組みも進んでいると感じた。また被災立地地域においても避難解除による復興が進んでいると感じた。

「若井恵子」

2年ぶりの福島第一原子力発電所の視察であったが、各号機とも冷温停止状態を継続しており、また放射性物質濃度は徐々に低下し、100万分の1未満に低減をしているとのこと。1号機から4号機原子炉建屋外観俯瞰エリアでは、降車して廃炉作業を視察することができた。汚染水対策として凍土遮水壁とサブドレン等の重層的な汚染水対策により、地下水位を安定的に制御している環境の中で廃炉対策が進んでいることを確認した。労働環境も改善されている。40年という長期にわたる廃炉作業になるが、着実に進んでいくことが地域の復興につながっていく。